

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200421		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム鳴門		
所在地	徳島県鳴門市撫養町木津445-1		
自己評価作成日	平成29年6月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、入居者様の能力の維持の為に、脳トレや運動などに力を入れている。その方に合わせた個別のレクリエーション等も取り入れている。また、できる事は手伝っていただき、達成感や充実感を感じていただけるよう努めている。月に1度は本人様の意見や希望を聞き取り、外出していただく機会を設けている。お誕生日会や行事等も同じような内容にならないようにしたり、季節感を味わっていただけるように工夫している。また、婦人会や地域行事等にも積極的に参加したり、ボランティアさんを受け入れさせていただく事で地域の方との関わりを持てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所での生活において、「利用者が自分でできることは自分で行い、達成感を味わい、自信を持つ」ことの支援に努めている。利用者一人ひとりに個別のレクリエーション(書道・生け花・カラオケ等)や脳トレ、体操の支援も行っている。事業所には、地域の婦人会や老人会、ボランティアの来訪が多く、地域との交流と連携がある。毎月1回、地域交流も兼ねて、利用者が昔よく通った喫茶店や美容院、ブティックなど、一人ひとりが希望する場所に出かける支援を行っている。利用者が青春時代を思い出す機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り後に基本理念と実践目標を復唱し、意識できるようにしている。日頃から、地域住民との交流や入居者様の自立支援に力を入れている。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、利用者が住み慣れた地域で生活を継続することができるよう支援している。毎朝、職員間や掲示板、名札の裏面等で理念を共有している。職員は、日頃のサービス提供の場面を振り返り、理念がケアに反映できているかを話し合い、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会や地域のイベントにできるだけ参加し、少しでも地域に溶け込んでいけるように努めている。職員と一緒に必ず入居者様の参加も勧めている。	事業所は、地域のお祭り等各種行事に参加するなどして交流を図っている。近くのお地藏様の前掛けを地元の婦人会からの依頼で利用者が縫ってかけ替えており、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年度初めに老人会へ出席させていただき、グループホームで日頃から実践している認知症の方への対応の仕方、認知症予防の為の取り組みをお話したり、口腔体操等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組み内容や課題、行事、目標達成計画の実施状況についての報告を行い、地域の人達から意見をお聞きしサービスの改善、向上に繋げている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。通常のメンバーに加えて警察官や消防分団長の出席も得ている。事業所の現状や、自己評価・外部評価への取り組みの報告等を行い、双方向的に意見交換を行っている。会議で出された意見はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の報告だけでなく、相談等も窓口や電話ですぐに対応していただいている。運営推進会議にも出席していただいている。	毎月、市の担当窓口に出向いて、事業所の現状や取組みを報告し、市職員からアドバイスももらっている。事業所には、市の介護相談員の来訪もあり、連携、協力関係を築くよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束についての理解を深めている。家族様からの要望があった場合でもリスク等の弊害を伝え、ご理解していただいている。	職員は、事業所内研修で身体拘束による弊害について理解を深めている。事業所の外に出ようとする方はいるが、見守りを重視し、利用者に抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、適切な対応を心掛けている。虐待を防止する為に職員は常に意識を持ちケアに当たっている。介護相談員さんの受け入れも抑止に繋がると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて定期的に学ぶ機会を設けている。現在、利用されている方はおられないが、必要な方がおられた場合には、速やかに関連機関と連携しながら活用に繋げられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除、改定の際、十分な時間を取って、説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は半年ごとにアンケートを実施し、要望を反映するようにしている。介護相談員さんの訪問時にも話を聞き取って下さっている。意見箱も設置している。	日頃から、家族の来訪時に管理者や職員に直接意見や要望を伝えてもらっている。また、利用者や家族にアンケートを実施しており、その結果を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で発言する機会を設けている。その他にも個別に申し送りを行う体制ができています。月末には職員全員が気づき(改善してほしい事等)の意見を出し合うようにしている。	月1回の職員会議で、職員は日頃の気づきを管理者に報告している。月末のミーティングでは全職員と管理者が運営に関する意見交換を行い、ともに話しあっている。出された意見やアイデアは運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレス軽減の為にチームワーク強化や業務の円滑化を図ったり、環境を整備するように都度見直しを行っている。職員は個々に得意分野を活かした役割を持つことで向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加して、全職員が知識や技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する研修に参加し、他事業所と交流を図れるようにしている。同法人のグループホームとも連携を図り、業務上の悩みを共有したり相談しあう事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせの際や面談、施設見学等で十分に聞き取りを行い、入所に当たって不安な事や本人様がどのように生活したいか等をしっかりと把握し、関係性を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはしっかりと家庭での状況、不安な事等を家族様の立場に立って、思いを受け止めるようにしている。必要な情報を職員間で共有し、家族様に安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の問い合わせの段階で情報収集を行い、グループホームのサービス導入が適切かどうか見極めている。家族様からの問い合わせがあった場合も他のサービス導入の可能性を含め丁寧に説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で生活の知恵を教わる機会があったり、個々の能力を職員が勝手な思い込みで決め付けることなく対応する事で、対等な関係性を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には密に状態報告を行い、出来るだけ現状を把握していただき、身近な存在として関係性を保てるように努めている。対応が難しい時でも家族様にアドバイスいただいたり、協力していただく場面もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や病院等で知り合いに久しぶりに会って、会話を交わす事もある。要望に応じた外出支援では、馴染みの場所を意識して一緒に出かけるようにしている。	事業所では利用者の関係継続支援として、毎月1回、職員は利用者とは外出することをルールとしている。本人や家族から馴染みの場所や行きたい場所を聞いておき、要望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性は、無理のない範囲で職員が中に入って良好な関係を保てるように努めている。日常的に過ごす機会の多い、食卓の席順には一番配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、御本人・御家族様と連絡を取り、状態をお聞きしたりしている。入院先へお見舞いに行ったり、相談事があれば応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に会話する時間を設け、できるだけ意向に添えるよう努めている。意思疎通が困難な方は表情やしぐさから思いを汲み取るようにしている。	職員は日頃の利用者と会話の積み重ねの中から、一人ひとりの思いを汲み取っている。意向の表出が困難な方は、家族や関係者から情報を得たり、数少ない言葉や表情から思いや意向を汲みとったりして最良の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から聞きとりを行い、これまでの生活歴や暮らし方の把握に努めている。日常的に日課や趣味活動に取り組んでいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態をよく観察し、変化があれば申し送りを行い、早々に対応している。できるだけ個々の能力を活用していただくことで状態の維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様、職員、計画作成担当者が話し合い、意見やアイデアを介護計画に反映している。医師や看護師に現状報告を行い、意見を伺っている。	事業所では、本人や家族の希望、職員や関係者の意見を反映した介護計画を作成している。本人の状況の変化や家族の要望等に伴い職員の意見を参考にモニタリングを行い、状況に応じて柔軟に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や体調、状態の変化等、細かく申し送りノートに記し、電子カルテに記録する事で職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やドライブ等、ご本人の要望の聞きとりを行い、柔軟に対応している。ご家族様の同意を得て、自宅にお連れする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や移動図書館の利用等、個人の能力に応じ支援を行っている。ボランティアの受け入れを行い、趣味活動の幅を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の希望されるかかりつけ医を受診していただき、職員はその付き添いを行っている。状態の報告を行い、医療連携を図っている。	事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診も支援しており家族の付き添いが困難などときには、職員が同行し、利用者の状態を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や現状を伝え、指示や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と密に連絡を取り合ったり、面会に何う等情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に予め重度化した場合についての説明を行っている。状態の変化によって都度報告を行い、今後の方針を話し合っている。	契約時の段階で、本人と家族に重度化した場合の事業所の指針や対応について説明している。状態の変化があれば、そのつど家族と話し合い、職員と関係者で話し合いつつ対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、急変や事故発生時に備えている。事故発生時のマニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域住民の方や消防署の方の協力をいただき、昼間、夜間想定避難訓練を行っている。消防の方だけでなく、地域の方にもご意見いただき、課題を検討する機会を持っている。	年2回、消防署の立ち会いのもと地域住民の協力を得て、事業所独自の避難訓練を行っている。運営推進会議では、出席者から火災はもとより水害や地震等について、意見やアイデアが出されており、マニュアル作りや訓練課題を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時の声かけやドアの開放、不 必要な肌の露出等にも配慮できている。	職員は、利用者本人の気持ちを考えて、さり げなく声をかけるよう配慮している。急がさ ず、本人のペースでゆっくりと『待つ』ことを大 切にする支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	質問に対する返答を待つ姿勢を大切にしてい る。ゆっくりでも答えを待ち、その方を知ろ うとする姿勢を第一に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等、おおよその時間 で実施している事もあるが、本人の要望で 決定していただき、無理強いないように心 掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	入浴時や着替えの際、どの服を着られるか お尋ねし、ご自身で選ばれる方には見守り しながら同じ服ばかりにならないよう配慮し ている。汚れた服はすぐに着替えてもらって いる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	毎食前、体操を行っている。毎食のメニュー をお伝えし、食事がより楽しみなものになるよ うに配慮している。一緒に食事を摂り、咽せ 等がないか見守りを行っている。洗い物や テーブル拭きを手伝っていただいている。	利用者と職員は静かな曲が流れるなか、同じ食 卓を囲み食事をとっている。献立は法人内の管理 栄養士が作成し、利用者と職員で食事の準備や 調理を行っている。近隣から野菜等の差し入れが あった時には利用者の好みに合わせてメニューに 加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	毎食の食事量のチェックを行い、状態観察 を行っている。飲み込みができていない方には トロミを使用している。咀嚼や嚥下、歯の状態 に応じ、刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に口腔ケアの見守りをしている。 個々の状態に応じては介助を行っている。 舌ブラシを使用されている方もおられる。口 腔状態も合わせてチェックし、必要であれば 歯科受診している。		

自己	外部	項目	2階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄ペースを考え、誘導時間を決めている。できるだけオムツに頼らず、トイレで排泄していただけるように対応を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。紙パンツやパット等は利用者の状態に合わせて使い分けている。居室には全室トイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく身体を動かしてもらうように、食前にも体操を取り入れている。おやつにも乳製品、果物など便秘に良い物を提供している。水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態や体調に配慮しながら、入浴して頂いている。個々のペースに合わせて、十分な入浴時間を設けている。	事業所では、毎日その日の利用者の希望に応じて入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりのペースでゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分睡眠がとれるように、日中の居眠り等に注意している。また、十分な活動が出来ているか、環境面、不安要因がないか等も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、職員間で共有し、薬の説明書で確認する等している。薬の増量や臨時薬等の把握に努めるが、周知できていない時がある。誤薬に対する取り組みに関しては徹底できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や生活歴等、得意分野に応じた日課や趣味活動支援を行っている。毎日、散歩に出掛けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月一人ひとりに意向を聞き、行きたい場所に出掛けるようにしている。思い出の場所など、その人の昔の生活が分かるような場所にも出掛けるようにしている。	天気の良い日には近くのお地藏様のお参りをしたり、事業所の周りを散歩したりしている。月1回、利用者の思い出の場所への外出も支援している。職員は、利用者の楽しみを家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項目	2階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけ、自分で払える方には支払いしていただいている。預かり金の管理は職員で行うが、必要な物を買う際、お金の使用に関しては家族様に都度同意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月には年賀状を書いていただいたり、届いた手紙を読んでいただいたりしている。電話がかかってくる場合もあるが、難聴であったり、通話することは難しい方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓に鉢植えや季節の生花を飾ったり、季節感を感じられる壁面飾りを飾っている。不快な臭いや室温管理、照明の具合等に配慮し、落ち着いて過ごしていただけるようにしている。	事業所内の浴室やトイレは清潔な環境となっている。共用空間には仕切りがなく、広々としており、食堂を兼ねたリビングは、空調に配慮している。窓際にソファを置き、利用者がゆったりと過ごせるよう工夫している。壁面には行事の写真や季節に合わせた飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり、入居者様同士で雑談をしたりして一人ひとりが気楽に過ごせるような居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた本人様のタンスを使っていたり、思い出の家族写真を飾ったりして居心地よく過ごしていただいている。	居室には、自宅で使用していた馴染みの家具等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの性格や好みに配慮し、居心地よく過ごすことのできるような環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室に目印を付けたり、転倒防止の為、移動スペースに物を置かないようにしている。本人の能力を活かして生活していたが、職員ができる事を奪わないような対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際、理念を全員で復唱し、意識を高めている。名札の裏に理念が書かれた紙を携帯しており、いつでもすぐに確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加させていただいたり、ボランティアの方の受け入れを実施しており、定期的に交流を持つことができている。顔なじみのボランティアの方もおり、楽しみにしている入居者様もおられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の中で認知症を理解してもらえよう工夫してお話させていただいており、その中で地域の方から相談を受ける事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中でいただいたご意見は出席できなかった職員全員に共有し、改善すべき点は会議等の中で話し合い、取り組むようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度、市担当者へ現状の報告を行っている他、入所の相談、ボランティアの受け入れ、介護相談員さんの活動等、現状を伝えながら、協力関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、それぞれが理解したことや意見などレポートにまとめ提出している。マニュアルなどいつでも確認できる場所にあり、知識の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、知識、意識の向上に努めている。また、職員会議などでも定期的に管理者から説明を受けており、各々が無意識でも虐待などしていることがないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的	定期的に勉強会を行う事により学ぶ機会を設け、制度についての理解を深め、活用できる様に心がけている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に	契約に関する説明を入所前等に管理者が家族様に説明を行っており、その際に家族様や入居者様に不安や疑問を尋ね理解や納得を図っている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者	利用者様や家族様にアンケートの実施を行っており、その結果に応じて改善への取り組みに努めている。意見箱も設置している。				
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月末に	月末にその月の気付きを職員は管理者に報告する機会を設けており、その際の意見や提案などを今後の業務に反映させている。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員	各職員に担当の業務があり、責任を持つことや達成感、やりがいを感じながらも、向上心を持って働けるようにしている。1年に1度、人事考課や自己評価を行っている。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設で	施設でも勉強会や、法人内外の研修会を受けられる機会を設け知識の向上に努めている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会	研修会に参加し、同業者との交流に努めている。また、研修の受け入れもしており、意見や情報交換をする事でサービスの質の向上に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設見学や面談を行うようにしている。その際に本人様の意見や要望などを聞き取り、納得された上で安心して入所できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っている事や不安に思っている事を些細な事であっても聞き取り、入所後の事について話をしながら、信頼できる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が必要としているサービスを見極め、それに応じた支援や対応ができる様考え、状態によっては、他のサービスの導入利用も提案するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は目上の方であり、常に敬う気持ちを持って接する様心がけている。本人様の気持ちを尊重し、職員と信頼関係が築けるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が気兼ねなく話ができる様、面会に来られた際には職員の方から挨拶し、話しかけていくようにしている。不安等で拒否が強い方には、受診の付き添いをお願いし、一緒に行く様にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様や家族様に馴染みの場所をお聞きし、その場所に外出する事もある。同じ施設内のデイサービスで、知人が来られている際には面会に行ったりしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が図れるよう、月に1度行事を行っている。利用者同士の関係を把握し、席順等を決めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても家族様や担当の方から状況の聞き取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様に馴染みの場所を尋ね、その場所に外出し、支援に努めている。同じ施設内で、知人が来られている際には面会に行ったりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様からの希望や現在の要望などをお聞きしている。その方の気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の日々の状態、状況を把握するための申し送りノートに記入したり、職員間でも共有やカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様、職員だけでなくかかりつけ医とも話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。入居者担当の職員はセンター方式の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートへの記入やカルテに状態などを記録している。また、気付いた事もすぐに職員間で共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の意見を尊重し、ドライブや外出支援を行っている。手芸や園芸等、その方にあつた趣味活動も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れを行っており、習字や生け花、踊りなどを披露していたり、馴染みの場所にも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様よりかかりつけ医をお聞きし、定期的に受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルを報告したり、体調の変化、急変等があれば、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行ったり、ソーシャルワーカーや家族様より状態を伺っている。スムーズに入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様には家族様や本人様より終末期について、意向をお聞きしている。できる限り希望に沿った支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。詰所にマニュアルを貼っており、職員は周知徹底を図れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間、夜間を想定した防災訓練を行っている。入居者様にも参加していただき、終了後、委員会の中で課題等も話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		トイレ誘導の声かけで、他者に聞こえないように声かけするように気をつけているが、徹底できていない時もあるので、注意したい。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		入居者様にまずはしたい事や行きたい所を尋ねるようにしている。また、本人様の要望や状態に応じたものを勧めたり、上手くできた事に労いの言葉を掛ける等、意欲を損なわない対応を行っている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		入居者様の希望を聞き、声かけを行い、傾聴しながら、支援できる様心掛けている。居室で過ごされたり、集団レクには参加せず、ぬり絵や手芸をされたり、自由に過ごしていただいている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		男性入居者様には毎朝髭剃りを行い、食事中に食べこぼしがあった時には着替えを行っている。女性入居者様にも汚れがあったときは、声かけを行っている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		食材の切り込みや、食器洗いを手伝っていただいている。野菜など固い物は、ゆで時間を長くしたりして軟らかくしている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		栄養バランス、カロリー等を考えて、献立が立てられている。個々の病気や口腔の状態に応じて、切り方など工夫している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後、口腔ケアを行っている。個々の状態に応じて介助を行い、寝る前には義歯消毒を行っている。				

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを見極め、誘導時間を決めたり、尿意の訴え等で誘導している。排泄に見守りや何らかの介助が必要な方が大半であるが、状態に応じた対応を心掛けている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただいている。毎日の水分補給時にも乳製品を使った飲み物を作り、お出ししている。毎日散歩や体操も行っている。下剤の服用を少しでも減らせるようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調がすぐれない方や拒否される方には無理強いしないようにしている。希望があれば、いつでも入れるようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場は室内に熱気がこもり、夜間寝苦しくなったりする為、室温管理には注意している。昼間、レクリエーションへの参加や散歩を勧め、適度に疲労感を感じていただき、夜間の睡眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や服薬時間の変更があれば、同職者に伝え、周知している。分からない事や症状の変化等がある場合、主治医や薬剤師さんに報告し、聞いている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔していた編み物をしていただいたり、洗濯物や調理のお手伝い等その方の状態によってできる事をしていただいている。希望を伺い、喫茶店や外食をしたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行きたい所、したい事があるか尋ねて外出を行っている。毎月、受診以外で全員が外出する機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額であれば、ご自身で管理されている方もおられる。預かり金は職員で管理を行っている。本人の希望があれば使用している。お金の使用については、入所の際、家族様と相談を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月に年賀状を作成してもらっている。また、本人様、家族様から希望があれば、電話も取り次いだり、掛けたりしていただけるが、あまり使用されている方はおられない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなど季節が分かってもらえるように壁紙を毎月、または2ヶ月ごとに変えている。また、室温湿度にも気を配り、対応を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルなど配置に気を配っており、気の合った利用者様同士で会話ができるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具など可能であれば、使用していただいている。居室で安心して過ごしていただけるよう写真なども置いたり飾ったりしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のベットの位置は、転倒しやすい方には、トイレに近いように配置したり、立ち上がりの際、足が滑らないように滑り止めマットを使用したりしている。			